

受験生応援ねじプレゼントキャンペーン 今年度も受付を開始しています

ゆるみを防止するという特長をもつ社長の工業用ファスナー「ギザタイト」を、ゆるみにくい＝集中力持続のシンボルとして、特別加工を施して、これまで5年間で2万2000人以上の方にプレゼントしてきました。

学校やクラス単位での応募もあり、今年度も「そろそろですか？」とお問い合わせを多数いただいておりますが、12月から受付を開始し、既にたくさんのご応募をいただいております。第1回の受付は締め切りましたが、1月6日、2月3日、3月3日と、これからも3回に分けて受け付けいたします（毎回先着100名にプレゼント）。

ねじの大切さ、奥深さをたくさんの方（とくに若い世代）に知ってもらいたいという願い、また

その若い世代、次代、次々代を応援していきたいという思いを「受験生応援ねじ」という形にはじめたキャンペーンで、おかげさまで冬の風物詩としてテレビや新聞などで毎年取り上げていただけるほどに大きく成長しています。

当社の技術や製品が日々進化し続けるように、毎年、同じことを繰り返すのではなく、年度ごとにバージョンアップさせてきました。下表キャンペーンのあゆみをご参照ください。そして今年度は「AR機能」を搭載させ、専用アプリをかざすと当社キャラクター「ねじとくん」がエールを送る仕掛けとなっています。お近くに受験生がいらっしゃいましたら、ぜひ本キャンペーンをご紹介ください。



日東精工グループ訪問

他社ではできないことを実現させる 精密プレスメーカー「伸和精工」

2018年から日東精工の連結子会社となった伸和精工は、長野県箕輪町（伊那）にある精密プレス加工のメーカーです。

下の写真は同社の創業時に開発した金型を使ったドットプリンター用の部品です。それまでいくつかのパーツを組み立てていたものが、プレス工程でできるようになり、また切削したり、溶接したりという工程がなくなり、大幅に省力、コストダウンにつながったものです。こういった精密プレス加工技術を磨き、進化させてきたのが伸和精工なのです。



左の金属をプレスして右のように仕上げます。

現在顧問である浅井光春が1985年プレスメーカーから独立し創業。会社を発展させるには「他ではできないことをするしかない」ということで、いろいろなニーズに応えるために工夫・努力を重ねてきました。当初は限られた設備のなかでプレス加工用の金型づくりからスタートし、実績を積み重ね設備を充実させ、現在は、スマートフォンのカメラモジュール、医療機器、自転車の電動変速機、ハードディスク部品をはじめ車載用バッテリー、バスパーなどの金型やプレス加工品をさまざまな業界へ多品種にわたり提供しています。

一口にプレスといっても様々な種類がありますが、精密剪断、精密絞り、精密鍛造といった高度なプレス加工技術を有しています。国内に1万社といわれる国内プレスメーカーでもこういった加工ができるのは数社のみで、伸和精工は千社に1社のプレスメーカーともいえるのです。

「HDDに使用される部品は内径公差が±0.003mmという極めて高い精度が要求され、従来は切削加工でしか対応できなかったものを、弊社がプレス加工で実現。月産400万個を安定した品質で生産しています」（片山博明会長）

「他社で断られた、できなかったことをあきらめず粘り強く実現してきました。代替のない技術力、そして営業担当のほとんどが技術部門経験者であることが当社の強みです」（小澤強社長）

2020年春には新工場も竣工予定で、さらにお客様ニーズに応え、また日東精工グループでの事業相互波及、シナジー効果も期待が大きくなります。



片山会長（写真右）と小澤社長



写真上は最先端プレス技術を使った製品。写真右は「品質管理」部門。会社玄関入って正面にあるのは、それだけ品質を大事にしている証です。



日本ねじ工業協会から8名が視察 有意義な意見交換をしました

一般社団法人日本ねじ工業協会は、日本のモノづくりを支えるために、ねじ工業の先進化および技術力強化を目指して設立されたねじ製造業界の全国団体です。11月1日に一般社団法人日本ねじ工業協会から、椿省一郎会長様をはじめ、政策委員会の皆様8名が綾部の本社に来社され、当社のねじ、ねじ締めロボットの製造工場を視察いただきました。

また椿会長や副会長の方々と当社代表取締役社長材木正己や役員との会談の場も設け、ねじの技能検定のあり方や課題など、ねじ業界の発展や技量向上について有意義な意見交換をさせていただきました。



グループ企業を交えて 「モノづくり改善発表会」を開催

11月は品質月間ですが、この品質月間の様々な取り組みの一環として、11月5日に「日東精工グループモノづくり改善発表会」を開催。昨年は海外5か国の現地法人代表を迎えて「グローバルQC改善発表会」を行いました。今年度は国内子会社を交えて全8サークルが1年間のQCサークル活動、改善活動の成果を発表しました。

グループからは建築ボルト製造の協栄製作所、精密プレス部品製造の伸和精工が初参加。互いの改善手法や着眼点などを学び合い、グループ全体のレベルアップを図りました。



協栄製作所の発表



伸和精工の発表

グループ全体の底上げを目指し 経営者育成研修&営業実践塾開催

10月26日と11月16日の両日、当社若手社員を対象に「財務管理基礎研修」を開催。これは若い人材の可能性を引き出し、将来のレベルアップには必ず必要となる財務管理の基礎を学ぶものです。

また当社では製造や管理の人材だけではなく、販売に携わる人材の質向上にも力を注いでいます。お客様と接する機会が多い若手営業担当者を対象に、10月19日と11月9日にお客様意識の向上と対人コミュニケーションスキルの向上のための研修会を実施。こちらには当社だけではなく、連結子会社である日東公進（京都府綾部市）、協栄製作所（奈良県五條市）、和光（群馬県邑楽郡）、松浦屋（東京都品川区）からも参加があり、グループ全体での底上げを図りました。



当社や関連会社、現地法人が 展示会に出展し、技術力をアピール

10月16日から18日まで福岡マリンメッセで行われた「モノづくりフェア2019」に九州日東精工が出展。また10月23日から26日までアメリカ・シカゴで開催された「The Assembly Show」には現地法人「NSA」が出展し、ねじ締め機などのデモンストレーションを行いました。とくに自動車分野に注目され、コンタクトいただいた方は昨年の30%アップとなりました。さらに12月には幕張メッセで「第3回接着・接合EXPO」も開催され、当社では異種金属接合「AKROSE」などをアピールしました。





アスリートファーストとセーフティファースト

オ

リンピックの馬拉ソンと競歩の会場が東京から札幌に変更になりました。コースをどうするか、追加で必要となる予算をどうするかなどで、まだ調整中のようですが、いい知恵を出し合っ、きつといい方向で収まってくことを祈っています。

さて、この一連の報道でよく耳にしたのが「アスリートファースト」という言葉でした。メディアではこの言葉が水戸黄門の印籠のようになっていたのですが、このファーストを「いちばん最初に考える」と捉えるか「最優先に」と捉えるかで意味が違ってきます。

スポーツの競技大会なので選手のことをまず考えるということは当然でしょう。そういう意味では「アスリートファースト」でなければいけません。

しかしオリンピックはアスリートだけでなく、それを支えるチーム、家族、サポーター

、ボランティア、観客……、そしてテレビで観戦する世界中の人のものでもあります。単純にアスリートが「最優先」ということでなく、すべてに對してしっかり目配りされなければいけないことでしょう。

これは企業に置きかえてみても同じです。

たとえば「お客様ファースト」といって、従業員をないがしろにすれば会社は成り立ちません。その逆の「従業員ファースト」も然り。

大事にしなければならぬものは、ひとつだけでなくたくさんあるのです。もちろん物事を判断していくうえで順番を整理していくことは大切です、事業活動においては「集中と選択」が問われることも多いでしょう。しかし「〇〇ファースト」いうことで、そこを重点的に見ればいいと、視野を狭めてしまうことがないように留意したいものです。

何より大切なのは「セーフティファースト」。

馬拉ソンや競歩の会場変更のきっかけは「より安全に」ということでした。「アスリートファースト」といっても、選手にとつて思惑は違ってくるでしょう。でも安全はすべてにおいて最優先されるべきもので、そこに思惑はありません。

もちろん自然相手のことですから、実は札幌のほうが暑くなつたということも起こり

得るかもしれませんが、それでも、その時点で考えられる「より安全」を選択していくのであれば、そのこと自体は間違つてはいません。

東京で準備されてきた安全、暑さ対策が今後札幌で生かされ、より安全面が強化されていけばいいですね。当社もお客様、株主様、地域の方々、従業員に常に心配りをしながら、安全安心を最優先していただく企業であり続けたいと思っています。

連載24

あやべ ちょっと寄り道

坂本龍馬夫妻を取り持つ、あやべの御縁

日本で初めて「ハネムーン（新婚旅行）」をしたのは坂本龍馬とお龍というのは知る人ぞ知るお話ですが、この夫妻が青蓮院の塔頭・金蔵寺で祝言を挙げたとき、仲人を務めたのが住職の「知足院」でした。お龍の父、榎崎将作が青蓮院の侍医だったこともあり深い関わりがあったのでしょうか。そしてこの知足院さん、じつは日東精工本社がある京都あやべ出身だったそう。知友・榎崎が亡くなってからお龍の実母や弟を気にかけて、あやべに暮らす甥に面倒見を依頼したといわれています。彼らが身を寄せていた加藤省吾邸はあやべの岡町にあったといわれ、この場所はなんと日東精工本社敷地の前にあります！



知足院生家跡に建立された記念碑。奥に見えるのは日東精工本社線材倉庫